

平成29年度 長崎県立川棚特別支援学校 学校評価（教職員）

※4:十分達成している 3:概ね達成している 2:どちらかというと達成できていない 1:ほとんど達成できていない

評価項目	具体項目	番号	目 標 及 び 具 体 的 方 策	28 評価	29 評価
1 学校経営 3.3					
(1) 学校経営	経営方針(教育目標)	1	前年度の評価結果及び児童生徒の実態を踏まえて学校経営方針を設定している。	3.3	3.3
		2	特別支援教育の理念のもと、障害観や自立観を踏まえて教育目標を設定している。	3.3	3.4
		3	教職員間の相互理解と保護者・地域との連携のもと教育活動を行っている。	3.4	3.3
(2) 学部・分掌 組織経営	経営方針具現化の方策	4	適切で具体的な努力目標を設定している。	3.3	3.3
		5	努力目標をもとに適切な学部目標を設定し取り組んでいる。	3.3	3.3
		6	努力目標をもとに各分掌は具体的な目標を設定し取り組んでいる。	3.3	3.3
2 教育活動 3.3					
(1) 教育課程の編成	創意工夫ある教育課程の編成	7	児童生徒の実態を的確に把握し、適切な教育課程を編成している。	3.2	3.2
		8	行事の精選と授業時数を確保し調整している。	3.1	3.2
		9	教育課程委員会や各部会等で、工夫改善に向けて計画的に取り組んでいる。	3.4	3.4
(2) 学習指導 ・教科別の指導 ・各教科等を合わせた指導 ・領域別の指導 ・道徳 ・特別活動 ・自立活動 ・総合的な学習の時間 等	授業の工夫と改善	10	個別的教育支援計画をもとに、発達課題や本人・保護者のニーズを考慮し個別の指導計画を作成している。	3.3	3.3
		11	児童生徒の実態に応じ教材を精選し、教具を工夫、活用している。	3.2	3.5
		12	生活年齢や発達段階に応じた指導方法について、教職員相互で話し合いをしている。	3.3	3.3
	教材の精選と活用	13	教職員間の共通理解のもと適切な評価を行い、必要に応じて目標等を修正し指導している。	3.2	3.3
		14	教育活動全般において命の大切さや、自分や他人を思いやる心を育てる指導をしている。	3.3	3.3
	適切な評価	15	行事や集会活動などを通して児童生徒同士が触れ合う機会を設け、好ましい関わり方を指導している。	3.4	3.5
		16	児童生徒の実態に即した効果的な行事や体験学習を行い、活動内容を工夫している。	3.3	3.4
	豊かな道徳的心情の育成	17	社会生活におけるルールやマナーを身につけるため計画的に指導している。	3.2	3.3
		18	実態に応じた交流及び共同学習を計画的に行っている。	3.4	3.4
	豊かな人間関係の育成	19	個別の指導計画のもと、指導内容の設定や指導方法の工夫を行い、意欲的な活動を促している。	3.2	3.3
		20	家庭や施設、関係機関と連携し一貫した指導をしている。	3.2	3.2
	学校行事の工夫	21	地域や学校の特性を生かした活動を工夫し、計画的に指導している。	3.2	3.2
(3) 生活、生徒指導	基本的な生活習慣の確立	22	場に応じた態度や礼儀、あいさつ等について指導している。	3.5	3.4
		23	排せつ、手洗い、うがい、歯磨き、着替え、食事等について保護者や施設と連携し指導している。	3.3	3.3
		24	学校いじめ防止基本方針を策定し、子どもたち一人一人に向き合い、いじめのない環境づくりに努めている。	3.4	3.4
	いじめの未然防止早期発見・早期対応	25	いじめの早期発見につながる状況把握を定期的に行っている。		3.3
		26	いじめの迅速かつ適切な情報共有や組織的体制が確立している。		3.3
		27	他校の学校公開や見学会の情報を伝え、計画的な進路指導を行っている。	3.2	3.2
(4) 進路指導	進路指導の充実	28	学校見学や施設見学、校外実習を計画、実施し進路の意識を高めている。	3.3	3.4
		29	本人、保護者のニーズを考慮し、関係機関との連携を図り、進路実現に向けた段階的な指導を行っている。		3.3
		30	保護者や施設等と連携し、健康や体力について指導している。	3.2	3.4
(5) 健康・安全教育	健康・安全に対する態度の育成	31	発達段階や障害特性に応じた、心やからだの発達に関する指導をしている。	3.3	3.3
		32	学校給食を通して、食育に関する指導の充実に努めている。	3.3	3.3
		33	避難訓練などを通して、児童生徒が安全な生活を送れるよう指導している。	3.4	3.5
		34	教育活動全般の中で人権意識が芽生えるように指導している。	3.3	3.2
(6) 人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	35	いじめや人権などについての研修を行い、理解と対応の充実、指導力の向上を図っている	3.2	3.2
		3 組織運営 3.3			
(1) 校務分掌	校務分掌活動の企画と運営	36	校務分掌の目標に基づき、計画的に企画、運営している。	3.3	3.4
		37	各分掌・各自の役割分担が明確であり、適切に仕事を処理している。	3.2	3.2
		38	分掌活動の評価を行うとともに、記録や資料を保管、活用している。	3.3	3.4
(2) 各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置と運営	39	目的に沿って適切に委員会を運営し、課題の検討を行っている。	3.4	3.3
		40	話し合いの結果を教育活動や学校経営に生かしている。	3.2	3.1
(3) 校内研修	研究体制の確立と実践	41	課題に基づいた全校研究テーマを設定し、計画的に校内研究に取り組んでいる。	3.3	3.3

(4)現職研修	教職員の資質の向上への取り組み	42	研修会等へ積極的に参加し、専門性や技術の向上を目指している。	3.2	3.2
		43	専門的知識を共有化するために、研修内容を教職員に伝える機会を持っている。	3.2	3.3
		44	専門性を向上させるために、外部講師による研修会を計画的に行っている。	3.4	3.4
		45	児童生徒が安全な生活を送れるように、緊急時を想定した研修を行っている。	3.4	3.5
4 教育環境 3.3					
(1)学校環境の整備	学習環境の整備	46	学習に必要な教材・教具・図書を整備している。	2.9	3.0
		47	校舎内外の清掃・整理整頓や整備を行っている。	3.1	3.3
(2)施設設備の管理	活用と安全管理	48	安全に留意して、施設設備を使用している。	3.3	3.4
		49	定期的に安全点検をし、補修等を速やかに行っている。	3.3	3.5
(3)情報インフラの設備・充実	教育活動の情報化	50	児童生徒の実態に応じて情報機器の利用ができるように整備している。	3.1	3.2
		51	情報機器を活用して、学習指導や校務処理を適切に行っている。	3.2	3.2
(4)エコオフィス活動	省エネ活動の取り組み	52	節電・節水を意識して行っている。	3.5	3.4
		53	用紙の節約を意識して行っている。	3.4	3.4
5 開かれた学校 3.4					
(1)家庭・施設との連携	相互理解の促進	54	学級通信・連絡帳・家庭訪問等を通して、適宜情報を交換し指導に生かしている。	3.6	3.6
		55	保護者懇談、学校行事や授業参観をする機会を設け、子どもたちの成長を共有している。	3.5	3.5
	PTA活動の充実	56	PTA活動が活性化するように協力合っている。	3.2	3.2
(2)地域や関係機関との連携	学校活動の啓発	57	定期的に川棚げんきだよりを発行したり、学校行事や学校公開の案内をしている。	3.5	3.6
		58	ホームページが見やすく、定期的に更新し情報発信をしている。	3.5	3.4
		59	児童生徒の作品を校外に展示するなど、発表の場を設けている。	3.6	3.4
	地域とのつながり	60	地域の社会的、人的、物的環境を進んで活用している。	3.1	3.2
	関係機関との連携	61	医療、福祉機関等と連携をとり、児童生徒に適切な教育活動を行っている。	3.4	3.2
	学校開放	62	地域や保護者(子供会、PTA活動等)に、学校の施設等を開放している。	3.0	3.2
(3)センター的役割の推進	地域のセンター的役割の充実	63	保護者や幼保・小中高、教育委員会等からの相談に適宜対応している。	3.4	3.4
		64	教育センター等や他の特別支援学校と連携した相談業務を行っている。	3.5	3.4
6 人的教育環境づくり 3.6					
(1)教職員の意識改革	子どもたちを育む教師像の確立	65	教職員は子ども・保護者等に誠意をもって接し、信頼を得よう努めている。	3.6	3.6
		66	子どもたちを育む教師像の確立に努めている。	3.3	3.5